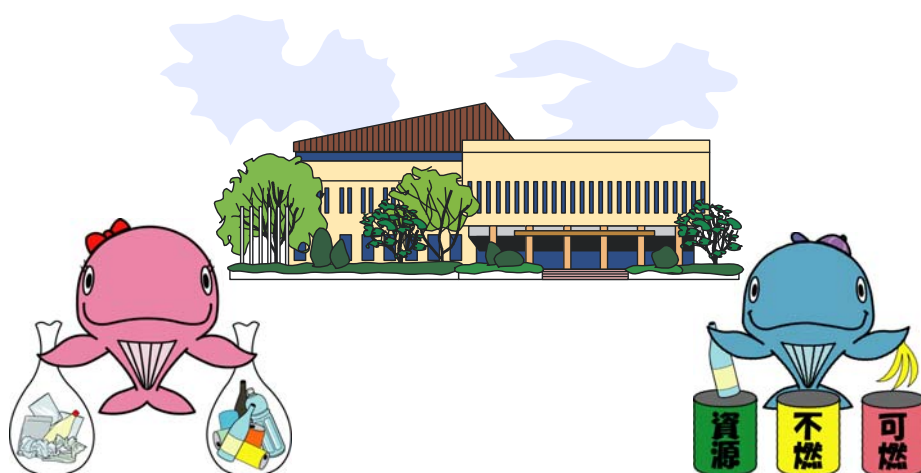


# やさしい 昭島市の財政

【平成24年度決算】



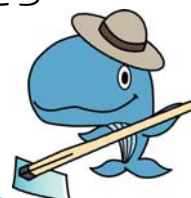


## はじめに

この冊子は、昭島市の財政白書である「昭島市の財政」の平易版として作成しています。

財政白書は、財政状況を様々な側面から考察しており、地方自治体の財政状況を知るうえで非常に重要な冊子です。その一方で、専門的な表記も多く、市民の皆さんにとって身近なものではありませんでした。

そこで、昭島市の財政をできる限り分かりやすくお知らせするために、「やさしい昭島市の財政」を作成しました。作成に当たり、自治体の財政についてあまり関わりのない方や学生の方々にも読みやすいように工夫しています。これを読んでいただき少しでも昭島市の財政について関心をもっていただけたら幸いです。



## 目次

I 財政	1
II 歳入（税金）	2
III 歳入（税金以外の歳入）	5
IV 歳出	10
V 市債と基金（借金と貯金）	13
VI 財政状況	17

この冊子を読むに当たって・・・

この冊子は、昭島市公式キッズページキャラクターの

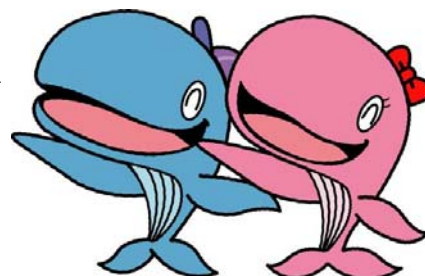


アッキーと



アイランが会話をする形式で内容を構成しています。

ぼくたちが、昭島市の  
財政を分かりやすく説  
明します！



※ 各表の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入し、端数整理をしていないため、合計額等と一致しないことがあります。

※ 本冊子中の「26市」とは、昭島市を含む東京都内26市です。



## I 財政



### 財政ってどんなもの？

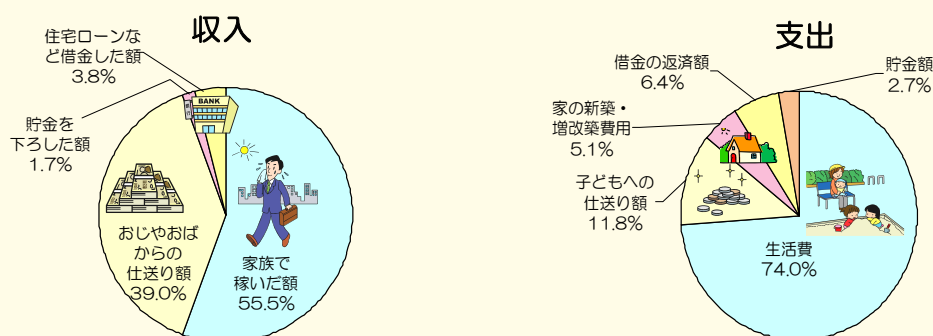


「景気がなかなか回復しないから、引き続き国や市役所の財政が厳しいってニュースで聞いたけど、『財政』ってどういうものなの？」



「財政とは、みんなから集めたお金をみんなのために使う仕組みのことで、みんなが住んでいる市町村の家計のようなものだよ。みんなが会社からもらう給料などで生活しているように、市町村もみんなが納めた税金、国や都からの補助金などで学校の運営や道路の工事をしているんだよ。みんなが住む昭島市の財政を下の『表1』のように、家計に置き換えてみるとわかりやすいかな。」

表1 平成24年度の財政状況



◆収入額	386億円	◆貯金残高	58億円（収入の約7分の1）
◆支出額	379億円	◆借金残高	235億円（収入の約5分の3）

#### < 収 入 >

家族で稼いだ額：市税、使用料・手数料、分担金・負担金など  
 おじやおばからの仕送り額：国庫支出金・都支出金、地方譲与税、地方交付税、各種交付金  
 貯金を下ろした額：基金繰入金  
 住宅ローンなど借金した額：市債

#### < 支 出 >

生活費：人件費、扶助費、補助費等、物件費など  
 子どもへの仕送り額：繰出金  
 家の新築・増改築費用：建設事業費  
 借金の返済額：公債費  
 貯金額：積立金

こう見ると色々な収入と支出があるのね。



「なるほど。こうして見てみると少し身近に感じられるわね。じゃあ、昭島市の財政状況ってどうなっているの？」



「では、一般会計についてもう少し詳しく見てみよう。『一般会計』とは、福祉、教育、ごみの処理など広く住民に対して市役所が行う事業に関して、基本的な収入や支出を管理している会計をいうんだよ。まずは、市町村に入ってくるお金である『歳入』からだね。」





## Ⅱ 歳入（税金）



### 税金とは？



「『歳入』とは、4月から3月までの1年間に市町村に入ってくるお金のことなんだ。歳入には色々なものがあるけど、まずは『税金』について話すね。」



「そもそも税金って何のためにあるの？」



「税金は、警察、消防、道路の整備といった『みんなのために役立つ活動』、年金、医療、福祉などの『社会での助け合いのための活動』や学校の運営や教材費などの『教育のための活動』などに使われているんだ。つまり税金は、みんなで社会を支えるための『会費』といえるね。税金は下の『表2』のように何種類もあって、このうち『市町村税』の欄の税が『市税』として昭島市に納められるんだ。また、東日本大震災の影響を受けて復興増税がされるんだ。」



「そうなんだ。ところで、復興増税ってなに？」









「復興増税とは、現在年額3千円納めている市民税の均等割額が、平成26～35年度までの10年間は3千5百円に増えたり、会社を退職する時にももらう退職所得について、市・都民税の10%の税額控除が、平成25年1月1日以降に支払われる退職所得に係る分から廃止されるんだ。その増税分のお金は昭島市内の防災や減災のために使われるんだよ。」



「知らなかったわ。災害に強い街づくりを進めて欲しいわね。」

表2 税金の種類

	国税 (国に納める税)	地方税（都道府県・市町村に納める税）	
		都道府県税	市町村税
直接税 (税金を負担する人が直接納める税)	所得税 法人税 贈与税 相続税など 	都道府県民税 事業税 自動車税 など 	個人市町村民税 法人市町村民税 固定資産税 軽自動車税など 
間接税 (物を買ったりした人が負担し、お店等が納める税)	消費税 酒税 たばこ税 関税など 	地方消費税 都道府県たばこ税 ゴルフ場利用税 など 	市町村たばこ税など 



### 平成24年度の市税収入の特徴

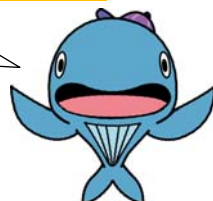


「それじゃあ、平成24年度は昭島市にどれ位の税金が入ったの？」



「全部で183億円納められたんだ。その内訳は次のページの『表3』のようになるよ。平成24年度の市税の収入は、平成23年度に比べて5億5千万円も減ってしまっし、一番市税収入が多かった平成19年度と比べると19億3千万円も減ってしまっているんだ。」

地方税のうち「市町村税」の部分が昭島市に納められる税金なんだ。



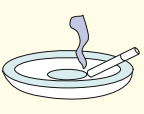
「そんなに減っちゃったの。  
何が原因なのかしら？」

「一番の原因は景気がなかなか回復しないことかな。少しずつ明るい兆しが見えてきたけど、市税のうち個人が納める個人市民税と、会社などが納める法人市民税にそれが反映されるのには少し時間がかかるから、まだまだ厳しい状況が続いているんだ。」

「平成19年度と比べるとどのくらいなの？」

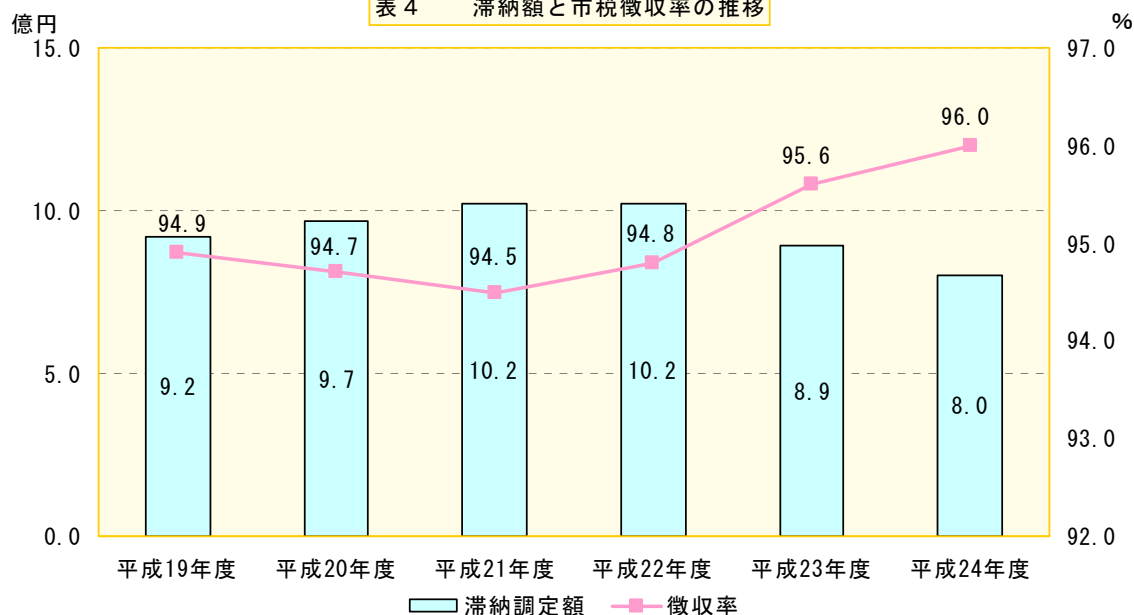
「個人・法人合わせて平成24年度の市民税が79億円だったのに対して、平成19年度は95億3千万円だったから、比べると16億3千万円も減ってしまっているんだ。会社やそこで働く人たちの収入が減るのは大変だけれども、そうすると国や市町村に納める税金も減ってしまう。昭島市の収入である税金が少なくなると、昭島市がサービスを行うのもやりくりが大変なんだよ。また、市税を期間内に納めてくれない『<sup>たいのう</sup>滞納』も問題になっているね。下の『表4』を見てみてよ。」

表3 平成24年度市税収入の内訳

個人市民税  68億4499万円	法人市民税  10億5110万円	固定資産税  80億9989万円
都市計画税  14億3816万円	市たばこ税  7億8240万円	軽自動車税  8629万円

合計額183億283万円（市民1人当たり16万2069円）

表4 滞納額と市税徴収率の推移



「市税がどれくらい納められたかを『徴収率』というんだけど、平成24年度は、96.0%だったんだよ。つまり残りの4.0%は滞納ということになるけど、滞納額は8億円にもなるんだ。」



「払われていない税金ってそんなにあるの!？」



「色々な事情があって税金を納められない人もいるけれど、みんなに公平に税を負担してもらわなくてははいけない。だから、昭島市には『市税等収納対策本部』<sup>しぜいとうしゅうのうたいさくほんぶ</sup>と呼ばれるところがあって、休日に窓口を開いて収納をお願いしたり、夜間に収納をお願いする電話をするなどして、これ以上滞納額が増えないように頑張っているんだって。」



「徴収率も平成23年度と比べて0.4ポイント増えてるし、これ以上滞納額が増えないためにも頑張ってもらいたいけど、やっぱりみんなが自分からきちんと税金を払ってもらいたいわね。」



「歳入には、ほかにどんなものがあるのかしら？」



「それでは、ほかの歳入について見てみよう。」

みんなちゃんと税金を納めてほしいわね。







### Ⅲ 歳入（税金以外の歳入）



#### 税金以外の歳入



「市町村の歳入には、税金のほかに主なものとして<sup>こっこししゆつぎん</sup>国庫支出金・<sup>とししゆつぎん</sup>都支出金、<sup>しやうりよう</sup>使用料・<sup>てすうりよう</sup>手数料、<sup>ぶんたんきん</sup>分担金・<sup>ふたんきん</sup>負担金、<sup>ちほうこうふぜい</sup>地方交付税、<sup>しさい</sup>市債といったものがあるんだ。どんなものなのか、それぞれ順番に見てみよう。」



#### 国庫支出金・都支出金



「まずは『国庫支出金・都支出金』だよ。」



「それってどんなお金なの？」



「ちょっと聞きなれない言葉だけど、これは、特定の事業を行うために国や東京都から市町村へ補助されるお金のことなんだ。昭島市の収入としては、税金の次に多く歳入全体の約3割を占めているんだ。」



「へえ～『特定の事業』ってどんなものがあるの？」



「例えば、昭島市では、学校の運動場の芝生化を進めていて、平成24年度も6校の小学校で工事を実施したんだ。」



「芝生の上で思いっきり遊ぶのって、気持ちよさそうね。でも工事ってすごくお金がかかるんじゃないの？」



「そうなんだよ。でも厳しい財政状況の中でも、昭島市のお金だけだと実施するのが難しい事業も、国や東京都の補助金をうまく活用して事業を進めているんだよ。」



「ほかにはどんなものがあるの？」



「拝島駅南口の駅前広場や周辺道路の整備、自転車駐輪場の工事などもそれに当たるよ。」



「こうやって見ると、色々やっているのね。」



「そうなんだ。市町村は、色々な事業にかかる費用の全部又は一部を国や東京都から補助してもらっているんだ。そのお金を歳入の中で『国庫支出金・都支出金』と呼んでいるんだよ。」



「そうなんだ。次は？」





## 使用料・手数料



「次は『使用料・手数料』だよ。これは、みんなが市町村の施設を利用するときに支払うお金や、ごみの収集袋を買うときに支払うお金などのことなんだ。」



「例えば、駅の近くに昭島市の自転車駐輪場があるよね。」



「うん。この前、自転車を停める人が、100円を払っているのを見たわ。」



「自転車駐輪場はいつもきれいに自転車が並んでいるよね。利用する人たちが、いつも気持ち良く利用することができるように整備や管理をしているんだけど、平成24年度では約1億3千万円ものお金がかかっているんだ。」

そのため、利用する人たちから使用料というお金を払ってもらって、自転車駐輪場の整備費や管理費にあてているんだよ。」

昭島市には駐輪場が  
18箇所あるんだよ。



「じゃあ、手数料ってどんなものがあるの？」



「生活すると必ず出るのが『ごみ』だね。」



「そうだね。お菓子を食べた後の袋やジュースを飲んだ後の空き缶やペットボトルなどいろいろな『ごみ』が出るわね。」



「市町村の代表的な市民サービスとして、ごみの収集や処理の業務があるんだけど、昭島市では『燃えるごみ』や『燃えないごみ』などを出すときには、コンビニエンスストアやスーパーなどで売っている昭島市が指定したごみ収集袋を買って、ごみを出さなければならないんだ。」



「ということは、ごみを出すにはお金がかかるってことなの？」



「そうなんだ。昭島市には約11万人が暮らしているんだけど、当然、ごみもたくさん出ることになり、ごみの収集や処理に係る経費は年間17億円くらいかかっているんだ。そこで、昭島市は、ごみを減らすことも目的として平成14年度からごみ収集の有料化を実施したんだ。昭島市が指定したごみ収集袋の購入代金手数料になり、平成24年度は約2億円の収入があったんだよ。」



「使用料と手数料って、1年間にどのくらいの収入があるの？」



「平成24年度はおよそ9億円で、歳入全体の2.3%を占めているよ。」



「そんなにあるんだ！」







## 分担金・負担金



「今度は『分担金・負担金』だよ。あまり聞かない言葉だけど、どんなものだと思う？」



「何だろう。ちょっと分からないわ。」



「市町村が行っている特定のサービスを受ける人が、サービスを受けるために負担する（支払ってもらふ）お金のことなんだよ。たとえば、保育園に通うときに保育園に支払うお金は、保育料という『負担金』なんだよ。」



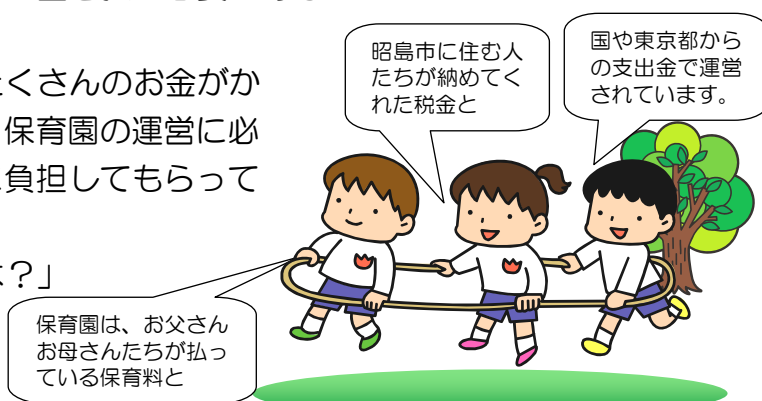
「保育園に通うのにどうしてお金を払う必要があるのかしら？」



「保育園を運営するにはたくさんのお金がかかっているんだ。そこで、保育園の運営に必要な経費の一部を保護者に負担してもらっているんだよ。」



「知らなかったわ。ほかには？」



## 地方交付税



「ほかには『地方交付税』というものがあるよ。これは法律で定められた一定の基準によって、国に納められた税金の一部が、国から都道府県や市町村へ配分されるお金なんだ。地方交付税は『普通交付税』と『特別交付税』の2つがあって、簡単にいうと『普通交付税』は国が定めた基準によって計算された収入が支出よりも少ない場合に、その分を国が配分して交付する制度なんだ。これにより、私たちが日本のどこの市町村に住んでいても教育や福祉など一定水準の行政サービスを受けることができるようにしているんだ。」



「じゃあ、全部の都道府県と市町村は『普通交付税』をもらっているの？」




「平成24年度では、47都道府県のうち、東京都だけがもらっていないんだよ。国が定めた基準によって計算された支出より税金などの収入の方が多かったからなんだ。東京都は、昭和29年度に現在の地方交付税制度ができてから、一度も『普通交付税』をもらっていないんだ。また、東京都の39市町村のうち平成24年度に『普通交付税』をもらっていないのは、立川市や武蔵野市などの6市だけで、昭島市も景気低迷の影響から市税収入が減ったことなどにより、平成21年度からは『普通交付税』をもらっているんだよ。」





「じゃあ『特別交付税』はどんなお金なの？」





---


 「『特別交付税』というのは、地震や台風や大雪などの自然災害の発生により受けた被害から復興するための費用や大雪の除雪費用など、<sup>きゅうきょ</sup>急遽お金が必要になった時に国から交付してもらうお金なんだよ。」

 「へえ〜。昭島市には『普通交付税』と『特別交付税』は、どのくらい入ってくるの？」

 「平成24年度は7億6千万円入ってきたよ。そのうち6億4千万円が、『普通交付税』なんだ。ただ、これは市の独自の収入が少ないことを意味するので、決して良いことばかりではないんだよ。」


 「そうなんだ。」

 「それから、平成23年度からは震災復興特別交付税というものも交付されているんだ。例えば、車を買うと自動車取得税という税金がかかって市の税収となるんだけど、震災の被災者に対してはこの税金が安くなる制度があるんだ。そこで、市の税収が減ってしまった分を、被災者に代わって国が市に支払ってくれるんだ。これが震災復興特別交付税というものなんだよ。」

 「いろいろな種類の交付税があるのね。」



## 市債

 「それ以外にも市債というものがあるんだ。次のページの『表5』に6年間の歳入の内訳が載っているけど、市債は歳入の中で3番目に多い収入なんだよ。簡単にいうと借金による収入なんだけど、詳しくは『市債と基金』のページで説明するね。」



## 平成24年度の歳入の特徴



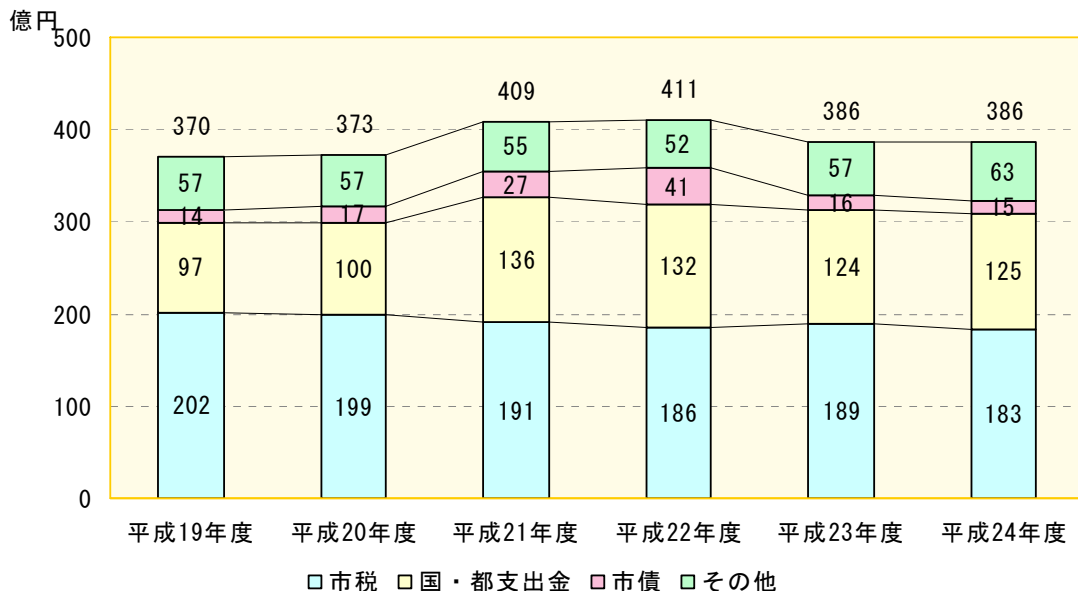
「それでは平成24年度の歳入の特徴を見てみよう。」



「市税は、<sup>ねんしょうふようこうじょ</sup>年少扶養控除の廃止によって個人市民税が増えたんだけど、特定企業の減収によって法人市民税が減ったことや、評価替えによる固定資産税が減ったことなどにより5億5千万円減って183億円になっているよ。それから、特別会計や市の貯金である基金から繰り入れるお金である『繰入金』が、2億5千万円増えて7億円になっているね。歳入全体では平成23年度より3千万円増えて386億4千万円となっているよ。」

※年少扶養控除の廃止・・・子ども手当の創設に伴い平成22年度税制改正により廃止された所得控除。所得税は平成23年度分から、市・都民税は平成24年度分から適用される。

表5 歳入額の年度別推移



「なるほど。全体の収入は少し増えたのね。」



「上の『表5』で詳しく見てみよう。例えば、国・都支出金だけど、平成23年度と比べて少し増えている。だけど、国・都支出金は、特定の事業のためにもらったお金と説明したよね？つまり、使い道が決まっているお金だから、自分たちで自由に使えるお金ではないんだ。逆に市税が平成23年度と比べて大幅に減ってしまっている。だから単純に歳入の増減だけではなく、こういった種類の歳入が増えたかが、重要になるんだよ。」

歳入のうち「市税」が増えると、使い道が限定されない収入になるので、ある程度自由に使えるお金が増えることになります。



「ほかにも色々な歳入があるけど、主なものは今話したものだよ。じゃあ今まで話してきた収入が、どの様に使われているのか、次に『歳出』について話すね。」



## IV 歳出



### 何にお金を使っているの？



「歳出とは、4月から3月までの1年間に市町村が使うお金のことだよ。昭島市では平成24年度に379億1千万円のお金を使ったんだよ。」



「そんなに使ったの！でも、何にお金を使ったのかいまひとつわからないわ。一体、どんなことにどれ位のお金を使ったの？」



「金額も大きいし、想像もつかないよね。じゃあ、市民1人あたりに提供されたサービスがいくらになるのかに例えて考えてみよう。下の『表6』は、平成24年度に昭島市が使ったお金を1人当たりの金額にした表だよ。赤ちゃんからお年寄りまで、1人1人にこれだけのサービスが提供されたことになるよ。」



「福祉のために使われているお金が一番多いのね。」

表6 何のために使ったの？

平成24年度は  
1人当たり33万  
5656円分の  
サービスを提供した  
ことになるよ。



<b>民生費</b> 福祉サービスを行うために使ったお金 保育園の運営 人件費 管理運営経費 など 16万3922円	<b>総務費</b> 税金の徴収などを行うために使ったお金 人件費 管理運営経費 など 4万4041円	<b>土木費</b> 道路の整備や管理のために使ったお金 設計・建設費 人件費 管理運営経費 など 2万3304円
<b>教育費</b> 教育などを行うために使ったお金 学校の教材費 学校管理費 スポーツ施設管理費 など 3万7857円	<b>衛生費</b> 衛生的な生活を送るために使ったお金 予防接種 人件費 ごみ処理経費 など 2万6983円	<b>公債費</b> 借りていたお金を返すために使ったお金 市債の返済 2万1326円



「『表6』は、  
何のためにお金を使ったかを示した表なんだ。もう一つ、下の『表7』を見てみよう。今度の表は、どんなことにお金がかかったかを示した表だよ。」

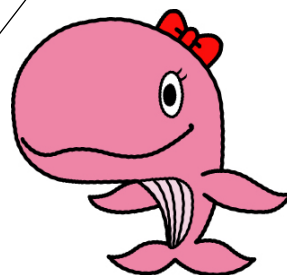
※その他(消防費・議会費・労働費・農林費・商工費)1万8223円

表7 どんなことにお金がかかったの？

<b>扶助費</b> 福祉サービス自体にかかったお金 児童手当 生活保護費 など 11万2696円	<b>人件費</b> 職員の給料などにかかったお金 市長 職員の給料 など 5万7374円	<b>普通建設事業費</b> 建物を建てること自体にかかったお金 道路建設費 学校の芝生化 など 1万7272円
<b>物件費</b> 行政サービスを運営するために使ったお金 通信運搬費 委託料 賃借料 など 4万9897円	<b>補助費等</b> 補助金などとして支払ったお金 補助金 自動車保険 謝礼金 など 2万5930円	<b>繰出金</b> 他会計や基金へ渡したお金 特別会計や基金への支出経費 3万9651円

※その他(公債費・積立金・維持補修費・投資及び出資金・貸付金)3万2836円

2つの表を見ると、  
福祉関係への支出が  
圧倒的に多いわね。



「一番払っている金額が多いのは、『扶助費』なのね。具体的には、どういうことをするの？」

「例えば、児童手当を支給したり、保育園を運営するのに必要なお金、障害者や生活に困っている人たちを支援するためのお金のことだよ。昭島市は多摩地域の26市の平均と比較しても扶助費の額が大きいんだ。この『扶助費』については、これから給付する基準やどのくらい本人に負担をしてもらうかなどについて、もっとよく考えていく必要があるんだ。」

「いいサービスを提供しつつ、お金がかからないように考えるってことだよな。難しいわね。」

### 平成24年度の歳出の特徴

「次に、平成24年度の歳出の特徴を見てみよう。」

「うん。」

「平成24年度の歳出は、エコ・パークの整備事業や小・中学校の耐震補強工事が終了したことなどにより、普通建設事業費が8億円も減っているよ。その一方で、生活保護費や障害者自立支援給付費などの増により扶助費が5億円も増えているし、新しく立川基地跡地昭島地区周辺都市基盤整備基金などを設置したことにより、積立金も6億円増えているんだ。結果として総額では平成23年度より3億円の増加となったんだ。主な事業は、下の『表8』のとおりだよ。ほかにも東日本大震災を教訓として市民防災マニュアルの作成・配布や防災行政無線電話応答装置設置など、災害に強い街づくりにも力を入れているよ。」

どれもすごい額のお金が使われているね。主な事業は、10月15日号の「広報あきしま」に詳しく載っているので、そちらも見てみよう。



表8 平成24年度の主な事業

<p>拝島駅南口自転車等 駐車場整備事業</p>  <p>1億7069万円</p>	<p>拝島駅南口周辺都市計画 道路整備事業</p>  <p>1億9013万円</p>	<p>市民会館・公民館 大規模改修工事</p>  <p>1億7186万円</p>	<p>昭島ブランド・フード グランプリ</p>  <p>200万円</p>
<p>昭島チャレンジデー2012</p>  <p>210万円</p>	<p>生活保護法に基づく扶助費</p>  <p>40億7387万円</p>	<p>保育園運営事業</p>  <p>38億6155万円</p>	<p>昭和郷第二保育園新築 工事費補助</p>  <p>2億6173万円</p>

「実際に目には見えないけれど、昭島市は色々なことにお金を使っているのね。これも、みんなの税金などで払われているんだから、大切に使わなくちゃね。」



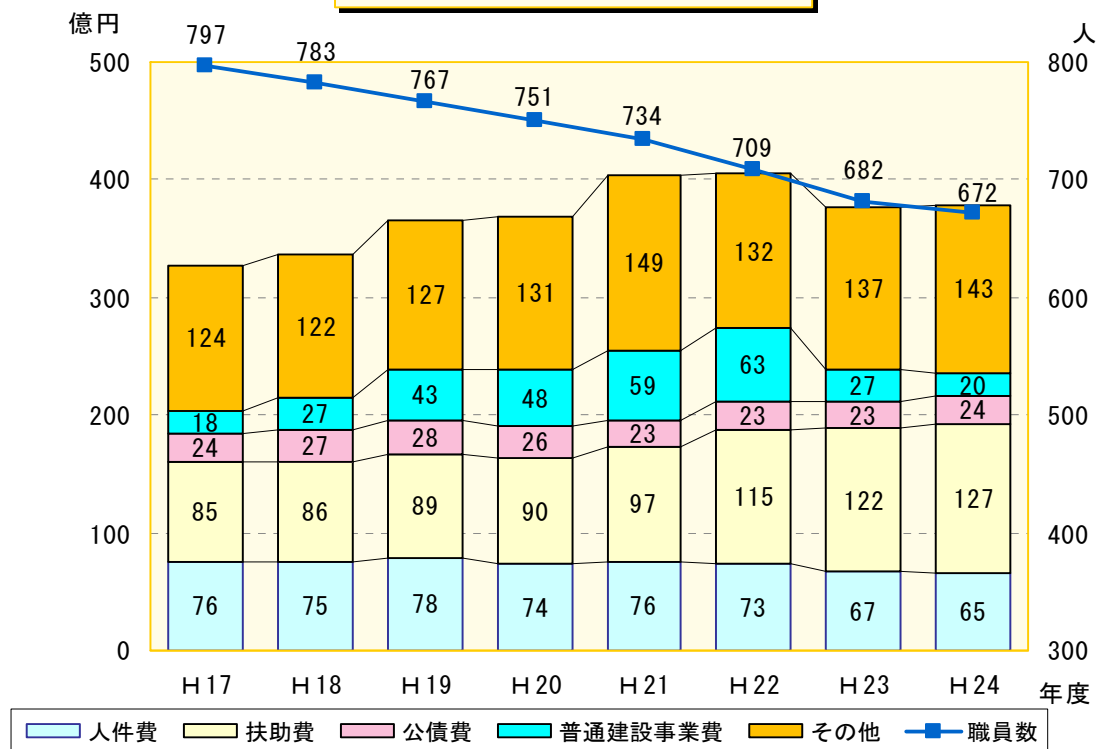


「そうだね。また、『表9』のとおり扶助費が増える傾向にあって、7年前に比べると1.5倍位に増えているんだよ。歳入は簡単には増えないから歳出を減らすしかないんだ。そのため昭島市では、施設の管理運営方法やさまざまな事務事業の見直しを行い、市役所の運営を効率的に行いながら、職員数を減らすなどの見直しも行い、7年前に比べ職員数では120人以上、人件費では11億円ほど減らしたんだよ。」

平成24年度は人件費が2億円も減っているのに、扶助費は5億円も増えているのね。



表9 性質別歳出額の推移と職員数



市税など自由に使えるお金が増えない中、扶助費などのお金を減らすことはできないので、我々もいろいろな仕事を効率よく見直すとともに、職員数を減らしたりして、なるべくお金がかからないように努力しています。



「そうなんだ。昭島市も厳しい財政状況の中、頑張っているのね。ところで、『表9』の公債費って歳入のページで話してくれた市債と何か関係があるのかな？昭島市の借金について詳しく知りたいわ。」



「公債費とは過去に借り入れた借金を返済するお金のことだよ。それでは、次に昭島市の借金と貯金について見てみよう。」





## V 市債と基金（借金と貯金）



### 市債

しさい

「市債とは、市の借金のことだよ。昭島市も一般の人たちと同様にお金がいらない場合に、国や東京都などからお金を借りて工事のお金などを支払ったりしているんだ。昭島市が借金をする場合、『市債』という債券（借用証書のようなもの）を起こして借りるんだ。だから市の借金を一般に市債といい、市債を発行することを『起債』というんだよ。市債は借金だから、当然のことながら借りたお金（元金）を返すときに、利子も付けて返済しなくてはならないんだ。だから起債するときは注意をしなくてはならないんだよ。」



「だったら、起債なんてしなければいいんじゃない？」



「もちろん借金は少ない方がいいんだけど、起債をすることには大きな意味があるんだ。では、ここで問題。市町村はその年に必要なお金を原則としてその年度に入った収入で支払っているんだ。けれど、この方法で建物などを作った場合、その後に昭島市に引っ越してきた人たちは、そのお金を払うことになるのかな？」



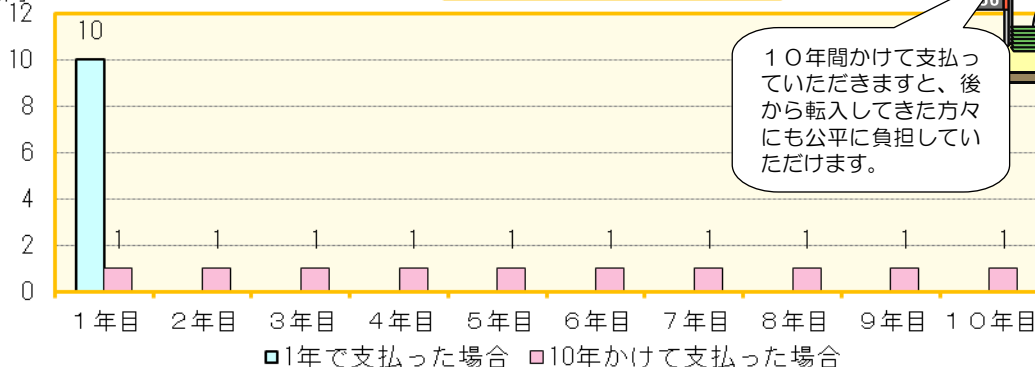
「建物を作ったときに住んでいた人たちが払った税金で建てていることになるから、タダでことになるんじゃないかしら？」



「そのとおり。建物や道路は長い間使用することになるよね。1年後に昭島市から引っ越す人もいれば、10年後に産まれてくる人もいる。その人たちにも公平にお金の負担をしてもらうにはどうしたらいいかな？」

億円

表10 10億円の支払方法



10年間かけて支払っていただきますと、後から転入してきた方々にも公平に負担していただけます。

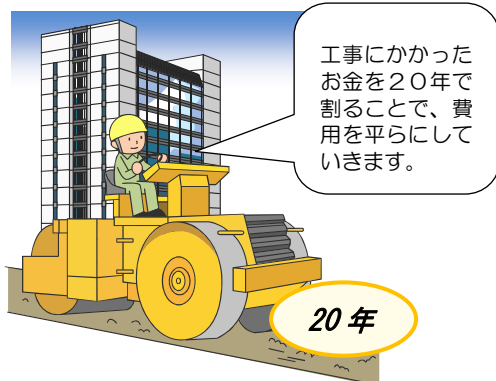


「使用する年数で費用を分けて払えばいいと思うわ。」



「そうだね。10年使用するなら費用を10年分で割り、毎年みんなで公平に負担して払えばいいよね。市債を返す場合は、20年とか長い年月をかけて返すことになる。さっきも話したけど、市債を返済するお金を公債費（こうさいひ）というんだけど、平成24年度では、利子を含めて約24億円を支払っているんだよ。」





「みんなが使うものは、みんなで負担することなのね。」

「そのとおり。このように借金をする理由には、世代間でのお金の負担を公平にするための役割もあるんだ。」

「そうなんだ。じゃあ市町村が借金するのは建物とか道路を作るときだけなの？」

「原則としては、建物や道路を作るときなどに借りる「けんせつじぎょうさい建設事業債」と呼ばれるものしか借りてはいけないんだ。ただし、例外として赤字地方債あかしちほうさいという借金をするときがある。これは言葉のとおり歳出が歳入より多くなり、借金をしなければ赤字になってしまう場合に臨時で借りるお金なんだ。」

「けど、やっぱり借金はしないほうがいいんじゃない？」

「そうだね。けれど現在のような不景気の状況では、赤字地方債を発行しないでやりくりするのは難しいんだ。」

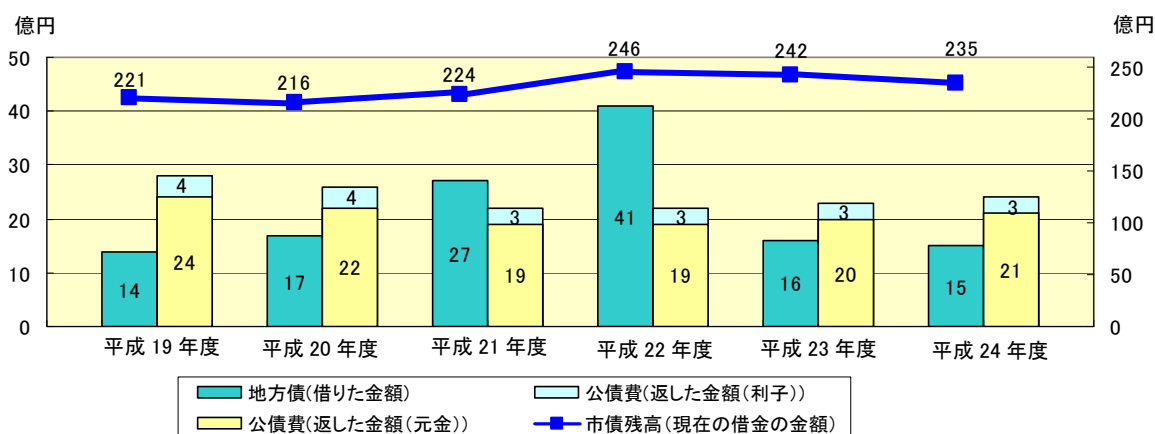


## 平成24年度の市債の特徴

「じゃあ、昭島市の今の借金の状態はどんな感じなの？」

「下の『表11』を見てごらん。ここ6年間にお金を借りた金額、返した金額（元金のみ）、そして借りたお金の残高が載っているよ。平成24年度は15億円を借りて21億円の元金を返していることがわかるね。」

表11 市債残高等



「平成24年度は、拝島駅南口自転車等駐車場の整備や道路整備に使うための借入れと、景気低迷に伴う臨時財政対策債の借入れを行ったんだよ。」

※臨時財政対策債・・・市町村の財源の不足を補うために特例として発行される地方債



「そうなんだ。今後も大変な状況は続くの？」

「そうだね。昭島市では今後拝島駅南口周辺の整備、立川基地跡地の開発、図書館（社会教育複合施設）の建設など多くの建設事業の予定があるんだ。だから建設事業債を借りることが今後も増えるかもしれないね。そして、さっきの赤字地方債だね。『表11』では市債残高は総額しか載っていないんだけど、市債残高の約半分が赤字地方債なんだ。さっきも言ったように赤字地方債は例外的に認められた借金だから多くなってしまうのは問題だね。だけど、不景気が長引くと赤字地方債をさらに借りなくてははいけないかもしれないんだ。」

市債は利子も含めて返さなくてははいけないでしょ？  
だったら必要最低限のお金だけしか借りないように頑張ってほしいね。



## 基金

「市債が借金ってことはわかったわ。じゃあ、貯金はないの？」

「貯金もちゃんとあるよ。市の貯金のことを基金というんだよ。景気が悪いときに借金をして支払いにあてているのとは逆に、景気がいいときは、歳入として支払うお金よりも歳入として入ってくるお金の方が多い場合がある。そのときは、景気が悪くなり歳入が減ったときに対応するために貯金をしているんだ。この基金を『ざいせいちようせいききん財政調整基金』というんだよ。ほかに、多額の費用がかかる特定の事業を行うためにお金を積み立てたりもしていて、平成24年度は、立川基地跡地の都市基盤整備のために基金を新設したんだよ。」

「ふ〜ん。じゃあ、昭島市の貯金額はどうなの？」

「次のページの『表12』を見てごらん。ここ6年間の基金がどれくらいあるのかを示した表だよ。」

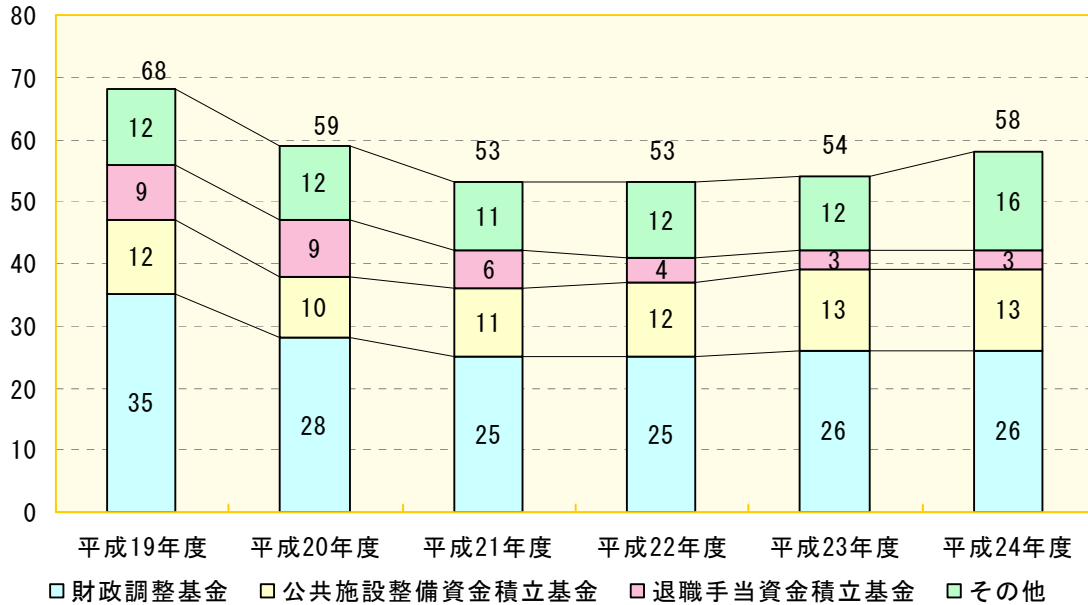
「よくわからないけど、6年間で10億円も減っちゃったんだ。これで大丈夫なのかしら？」



「基金には歳入が減ったときに対応するための貯金と特定の事業を行うための貯金があると説明したよね？税金の収入は景気の影響を受けやすい。特に会社に納めてもらう税金である『法人市民税』は大きく変動するんだよ。次のページの『表12』で詳しく見てみよう。」

億円

表12 基金現在高の推移



「例えば『その他』の現在高は、平成23年度都比べて4億円も増えている。だけどこれは特定の事業を行うための貯金だから使い道は決まっていて、もしもの時など自分たちで自由に使える貯金ではないんだ。逆に景気の影響を受けて、法人市民税などの歳入が減ったときに対応するための貯金『財政調整基金』の現在高は、平成23年度と変わらず26億円だけど、平成19年度と比べると9億円も減ってしまっているんだよ。

だから単純に基金の増減だけではなく、こういった種類の基金が増えたかが、重要になるんだ。

これだけの基金で、現在のように景気低迷の状況が続き、11ページで説明した扶助費が増え続けたときに対応できるかな？また、昭島市役所では今後多くの職員が定年を迎え、多額の退職金を払わなくてはならないんだ。そのときに今の基金で対応できるかはわからないよ。だから市債と同じようにきちんとした管理が必要になるんだ。」



「そうだね。貯金もなるべく使わないように努力してもらわないと。だけど、借金を減らし貯金を増やすには、無駄なものを買わなければいいんだよね？だったら、昭島市も無駄な支出を抑えればいいってことかしら？」



「そうだね。ただ、支出を減らすことは市民サービスの低下につながりかねないから、なかなか難しいんだよ。さっきも言ったとおり扶助費はここ7年で、減るところか1.5倍位に増えているよね？だから、みんながなるべくお金を使わないよう協力しないといけないんだよ。」

退職者の数が増えていたので、退職手当資金積立金が少なくなっています。







## VI 財政状況



### 昭島市の財政状況は？



「どうだったかな？昭島市の財政のこと、少しはわかってきたかな？」



「う〜ん、昭島市が色々なことをやっているってことはわかったわ。でも、昭島市の財政状況っていいのかな？それとも悪いのかな？数年前に北海道の夕張市が『財政再建団体』になったってニュースをやっていたのを思い出して、ちょっと心配になってしまったわ。」



「そうだね、財政状況を知りたいときは色々な指標（数値）を使ってチェックすればいいんだよ。例えば、さっき市債や基金の残高を説明したけど、これらも財政状況を判断するための大事な指標だよ。もちろん、市債の残額はできるだけ少なくて、基金の残高はできるだけ多いほうがいいよね。」



「確かにそうね。でも、貯金があって借金がなくても、暮らしにくい街だったら、私は住みたくないわ。」



「そうだね。確かに市町村の仕事は、住民にとって暮らしやすいまちづくりを進めることだから、それだけでは判断できないよね。だから財政状況を表す指標は一つだけじゃなくていくつもあるんだ。例えば、代表的なものとして『経常収支比率』や『公債費比率・実質公債費比率』というものがあるんだけど、どんな指標なのか、それぞれ見てみよう。」



### 経常収支比率



「まずは『経常収支比率』だよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、必ず支払わなければならないお金がどれくらいあるのかを示す割合のことで、各市町村の財政にどれくらいの余裕があるかを表しているんだよ。この数値が低いほど、市独自の事業など自由に使えるお金が多いということなんだ。つまり、建物や道路をつくるなどの臨時的な経費に対応しやすくなるんだよ。」



「う〜ん、なんだか難しくてよくわからないわ。」



「例えば1人暮らしの会社員であるAさんとBさんという人がいて、それぞれ毎月30万円の収入があるとする。そうすると、この二人はこの30万円を好きなことに自由に使えるかな？」



「それは無理よ。だって、生活するためには食費とか家賃がかかるでしょ。」

「そうだね。この食費とか家賃とかは、生活をしていくには必ず必要で使い道が決まっているお金ということになるよね。例えば、食費や家賃が合計で月15万円しかかからないAさんと、月24万円かかってしまうBさんでは、どちらがお金に余裕があるだろう？」

収入に対して、必ず支払わなければならないお金の割合が高いと、自由に使えるお金が少なくて困るなあ。



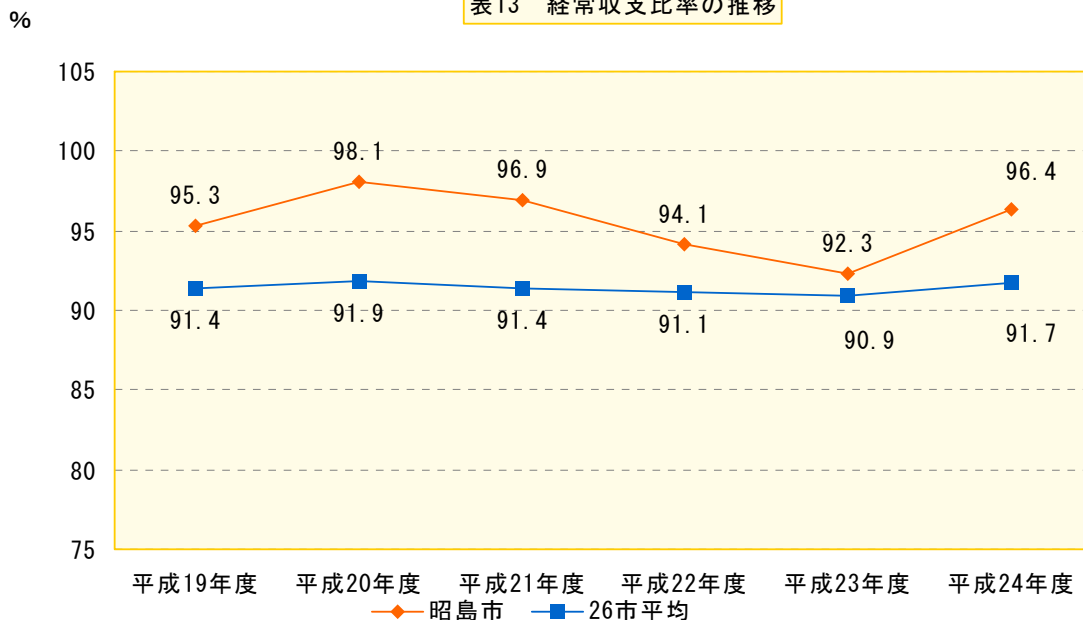
「それは簡単よ。Aさんに決まっているわ。」

「そう。Aさんの方が毎月必ず支払わなければならないお金が少ないから、経済的にはAさんの方が生活に余裕があるはずだね。経常収支比率というのは、これを市町村の一年単位の収入と支出で計算したものなんだ。AさんとBさんをそれぞれ市に見立てると、A市とB市の経常収支比率はそれぞれ50%、80%ということになるんだよ。」

「へ～、確かにこういうやり方なら市町村の財政状況がよくわかるわね。じゃあ、昭島市の経常収支比率は何%なの？」

「下の『表13』を見てごらん。」

表13 経常収支比率の推移





経常収支比率は、高い状態が続いているので、柔軟な対応がしづらい状況です。





「えっ！平成23年度より4.1%も高くなって、経常収支比率は96.4%？それって、1億円収入があっても、そのうち9640万円は使い道が決まっているってこと？」





「そうなんだ。もちろん多摩地域の26市の平均が91.7%だから、昭島市だけがとりわけ高いってわけではないんだ。でも、26市の平均より4.7%も高いし、一般的に経常収支比率が80%を超えると財政に余裕がなくなるといわれているから、それに比べてかなり高い数値ということになるね。」

「原因はなんなのかな？」


「主に二つの原因があると思うよ。一つは景気が悪くて歳入の大黒柱である『市税』の収入が減少傾向にあるんだ。さっき例で出したAさんの給料がもし月18万円になってしまったら、当然生活に余裕はなくなってしまうよね」

「そうだね。じゃあもう一つの原因は？」


「もう一つの原因は、歳入は減っているのに毎年必ず支払わなければならないお金（行政サービスの部分）が減っていないことだね。特に歳出のところでも出てきた扶助費は年々増えていて減る見込みはなかなか立たないんだ。昭島市の職員の給料などは減っていつているけれど、退職金も含めると大幅に減らすことは難しい状況だね。」

「う〜ん、昭島市の財政は想像以上に大変なのね！」


#### 公債費比率・実質公債費比率


「続いて『こうさいひりつ公債費比率・じっしつこうさいひりつ実質公債費比率』だよ。公債費という言葉から想像できるように借金の返済額に関係があるよ。まず公債費比率だけど、これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、公債費の支払いがどれくらいあるのかを示す割合のことで、一般的に10%を超えないことが望ましいとされているんだ。」

「う〜ん、あんまりイメージがわからないなあ。」

「それなら私たちの家計に置き換えてみよう。私たちの家計を1年単位で見て、給料などの収入の中に、住宅ローンなどの借金の返済がどれくらい占めているかという割合なんだ。」

「へ〜、それなら少し身近に感じられるわね。」

「銀行などから借りているお金が返せなくなると、とても大変なことになるから、給料などの収入を考えながら、借金の返済額が多くなりすぎないように気を付けなくちゃいけないんだ。」

「よく分かったわ。借金は返済のことも考えて借りなければいけないのね。」

「次に実質公債費比率だけど、これは、今説明した公債費比率に一般会計（P.1で説明）以外の水道事業会計、下水道事業会計や市が関係する組合（多摩地域の26市のごみ処理している組合など）などの借金を市がどれだけ負担しているかを加えて計算したものなんだ。」

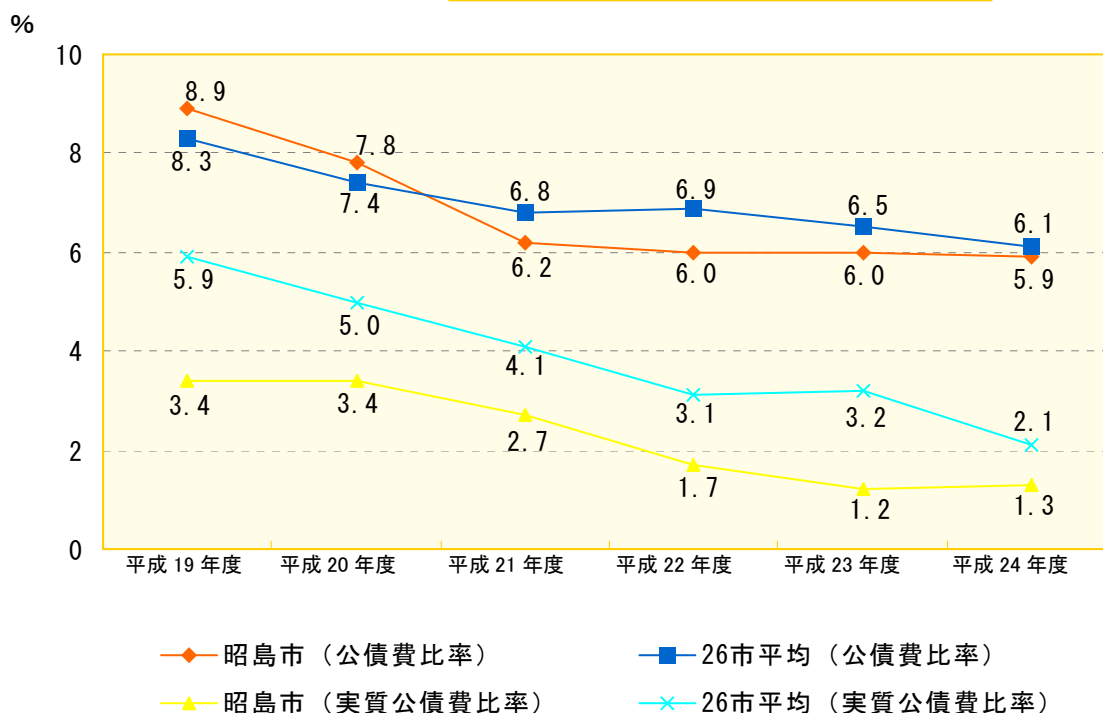
「なんだか難しいけど、率が低いのと高いのはどちらがいいんだろう？」

「公債費比率・実質公債費比率のどちらも借金の割合を示す数値だから、なるべく低い方がいいんだよ。とくに実質公債費比率は、18%を超えてしまうと借金するときに、国の許可が必要になってしまうんだ。」

「えっ！市が借金をするのに、国の許可が必要だなんて、大変だ。昭島市の公債費比率・実質公債費比率は何%なの？」

「下の『表14』を見てごらん。」

表14 公債費比率・実質公債費比率の推移



「平成24年度の昭島市の公債費比率は5.9%で、26市中13番目に低いんだ。また、実質公債費比率は1.3%で、26市中7番目に低いんだよ。」

「へ～、確かにこういう表を見ると、昭島市が大幅に借金に頼ることなく、財政運営を行っていることがよくわかるわね。」

「難しい話だったけど昭島市の財政が前より少しはわかってくれたかな？」

「うん！」



「それならよかった。今回は昭島市の財政に関して簡単な部分しか教えてあげられなかったけど、昭島市の財政状況は広報やホームページでも年に数回公表されているよ。もっと詳しく知りたくなったら下記をのぞいてみてね！」

### 昭島市の予算・決算

<http://www.city.akishima.lg.jp/1080yosankessan/>

昭島市の予算や決算についての詳しい情報は、こちらのサイトに載っています。

